

# 宮古教育時報

発行者 沖縄県教職員組合

宮古支部 情宣紙

TEL 72-3328 FAX 73-2603

E-mail; [otu-m@miyako-ma.jp](mailto:otu-m@miyako-ma.jp)

◇各分会の情報をお知らせ下さい。

## 中央教研集会参加者報告より



今年最後の教育時報です。前回号に引き続き、教研集会参加報告(最終)です。障害児教育分科会に参加された平一小学校のお二方(前川和美さんと兼島朋子さん)の報告です。

11月14日(土)に行われた、教育研究中央集会の分科会に初めて参加しました。

「障害児教育の分科会」では、30人以上の参加者で、各地区の取り組みを聞くことができました。

教育研究中央集会に参加するきっかけは、先輩に声をかけてもらったからという、浅はかな動機でしたが、毎日の授業の中で、なかなか指導が届きにくい子どもたちへの対応のヒントをもらえたら・・・という、期待もありました。

美咲特別支援学校の安里先生のレポート「ひとりのできるもん！」障害の重い子どもがそう思える作業をつくる」では、できないことに視点を当てるのではなく、できることに視点を当てて、課題をつくり作業をさせる授業の持ち方の工夫の実践を報告していました。その後の質疑から、過敏な子への対応や母子分離できない子への対応など、共同研究者の砂川先生からアドバイスをいただきました。

名蔵中学校の橋田先生のレポート「共に学び合う体験学習をすすめるには」では、宿泊学習や牧場体験学習などから生徒たちの変容を報告していました。そこでは、行政からの支援金があるところとないところがあるという話から、法律まで話が進み、正直、無知な自分に気づかされました。

この分科会で、3つのことに気づかされました。一つ、子どものできることに視点を当てて、授業を考えることの大切さ。二つ、子どものために一生懸命になっている先生方が県内にはたくさんいること。三つ、自分の努力・工夫は足りない、方法はまだあるということです。とてもいい刺激になりました。

そして、なにより参加するに当たって、申し込みや会場までの移動の調整など、一人一人に心配ってくださった支部役員の先生方に感謝しています。前日の懇親会では、普段なかなか会って話せない先生方とも触れ合え、さらに、いろんな話が聞けて楽しかったです。また機会があれば、参加したいと思います。そのときは、全体会から参加したいです。

平一小分会 前川 和美



教育相談分科会



障害児教育分科会



外国語教育分科会

「どれだけ活発に話し合いが行われるかな。やっぱり社会科にしようかな。」と参加することに不安を持って行ったが、参加者も多く、大変活発で、教科を変えてよかったと思った。参加者は20人くらいで支援学校の先生、支援学級の先生、半々くらいであった。

報告は4点。共同研究者は、浦添在住の砂川先生であった。宮古出身の方で長年、障害児教育に関わっているようであった。

報告から印象に残っているのが、八重山の中学校の宿泊学習についてであった。近隣の学校の支援学級で宿泊学習した様子の報告であった。特別に企画（研究のため？）してやったのだらうと思って聞いていたが、質疑応答になったとき、どの地域でも年に1回は実施していることに驚いた。逆に、していない宮古の方にみんながびっくりしていた。

牧場へいっしょに体験に行ったり、宿泊学習したりと、それぞれ違う障害の子ども達がレクを楽しむ様子は、成長の上でいい経験になるだろうなと思った。子ども達が司会をし、会を進める様子も、たくましさを感じさせた。

砂川先生には、昼休みに通級指導教室について質問した。これも同じように各地区にあるとのこと。児童の送迎には問題があるということであったが、その他の課題については聞くことはできなかった。通級指導教室についてメリット・デメリットを一番知りたかったが時間がなかった。宮古の支援については、支援の担任が短期でよく代わるのはよくないという意見も聞いた。確かに言えると思った。時間がなく具体的なことを聞くことができず残念に思った。

高校卒業以来、30年ぶりに友達にも再会したことも喜びの一つであった。全体会にも参加できず、分科会も最後まで参加できなかったのは残念であったが、刺激を受けた1日であった。

支部の役員の方には、手続きが遅れたにもかかわらず、いろいろ配慮頂いた上、参加させてもらいありがとうございました。

平一小分会 兼島 朋子

## 中央教研各支部からの反省

12月9日に開かれた中央執行委員会で、第56次教育研究中央集会の総括を行いました。「支部からの参加者を増やす努力が必要だ。」「支部教研を活発にすれば中央教研にも参加するはず?」「レポートの少なさに驚いている。参加者も少ない。」等の意見が揚がりました。

参加者減少の要因には、「行事や官製研修が増えて多忙化で、教研集会参加の意欲が薄れているのでは?」や「参加したくても行事が重なり参加できない。」等、色々なことが考えられます。しかし、やはり支部教研を活性化していくことと、私たち教育に携わる者としては、行政からの一方通行の研修だけでなく、自ら日々の教育実践の中から課題を見つけ仲間達と意見を交わしながら切磋琢磨していくことが大事であり、仲間と語り合うことにより充実感も溢れてくるのではないかと、今回中央教研集会に参加された方々が提出してくれた“教研参加報告書”を読んでいて強く感じました。

国頭支部教研集会全体会の総括より。『(全体会の)講師は教育の現状を「自信をなくす先輩教師と勘違いする若い教師」と教育政策によってつくられた意識を分析し、「先輩教師がもっと自信を持って教育の大切な経験知を若い教師に伝える義務がある」と先輩教師を励ました。』

さて、組合の教研集会で行っているような教育研究活動は、国や政府のためや組合のために行うものではありません。目の前の子ども達のために行うものです。今後とも教研の灯を絶やさず活性化するためにも、まず支部教研の持ち方やアイデア等の意見をお聞かせ下さい。支部あてにFAXやメールで意見をお待ちしております。FAX番号やメールアドレスは右上の方に記載してあります。

## 今後の予定

恒例の生け花教室を12月29日(火)に開催します。詳細は各分会宛に配布したポスターをご覧ください。また、年明けの1月16日(土)支部旗開きを予定しています。第1部は旗開きレクとして分会対抗ボーリング大会、第2部は教育会館にて新春の集い。共に集い語り合しましょう。各分会から多くの参加者お待ちしております!!